

第1回全国ESD自治体会議・全国ESD自治体フォーラム参加報告

金澤 裕司
坂本 勇介

11月27・28両日にわたり立教大学池袋キャンパスにおいて「全国ESD自治体会議」と「全国ESD自治体フォーラム」が開催されました。この会議は「立教大学ESD研究所ESD地域創生研究センター」の設立を記念して立教大学ESD研究所とESD連携協定を結んでいる自治体やESD先進自治体が一堂に会して開かれたものです。参加した自治体は12あり、そのうち8自治体の首長が出席しました。

27日午後から「全国ESD自治体会議」、翌28日には「全国ESD自治体フォーラム」が開かれました。「自治体会議」では連携自治体の首長が各自自治体のESDへの取り組みや目標を発表しました。「フォーラム」では、基調講演と実務担当者間の情報交換が行われました。

各自自治体の発表内容は全て興味深いものでありました。中でも対馬市の域学連携による「対馬創生」はその取り組み期間の長さに対応した成果を上げている様子がよくわかりました。また西伊豆町は羅臼町とよく似た地形にある町で抱えている課題も共通したものが多く感じられました。その他長野県飯田市の伝統行事など地域素材を活用した実践、福井県勝山市の市を上げたESDへの取り組み、福島県只見町の川をテーマにした実践などすべて興味深く示唆に富んだものでした。どの自治体の取り組みも私たち羅臼町の取り組みの数歩先を歩んでいる部分が必ず含まれていて、許されるものであれば11の自治体全てを訪ねて学んでみたいと強く思いました。

また27日、来賓として出席した環境省総合環境政策統括官中井徳太郎氏の挨拶を兼ねた短いプレゼンテーションの中で紹介された環境省の「地域循環共生圏」の構想は、受け取り方によってはグローバリズムによる経済成長に真っ向から対峙する考え方のようにも考えられ大変興味深く聴くことができました。国の進むべき道について、誰よりも早く方向を示す立場の行政機関は、時にこのような従来の路線とは反対の方向を平然と提案できる多様性を持っているものなのかと感心しました。

28日の実務担当者によるフォーラムで基調講演された藻谷浩介氏のお話は強い印象として残り、帰町後校長会など各種会議の場で多くの人に紹介しました。

日本経済の成長と言う話題から入り、クラウドコンピューティングを社会脳に例えて解釈し、人づくり問題の全体像として変革・実行できる「キーパーソン」を活かせない問題についての分析はいちいち正鵠を射ていると感じられ、まさに羅臼町に当てはまるものだと思います。

この両日の会議が充実していて多くの学びができただけに、ここで得た知見をどのようにして地元を持ち帰り職場の職員と共有するかは大きな課題だと考えます。「百聞は一見にしかず」という言葉はあります。しかし、まさか役場職員全員を参加させることなどできません。

どのような研修を企画しどのように効果的に伝えるか、その方法や技術を磨くこともわれわれにとって重要な課題である、正門前のモミの木で温かく柔らかな光を放つイルミネーションを眺めながらしみじみと感じた2日間でした。

(かなざわ・ゆうじ 北海道羅臼町自然環境教育 主幹)

(さかもと・ゆうすけ 北海道羅臼町社会教育課 主事)